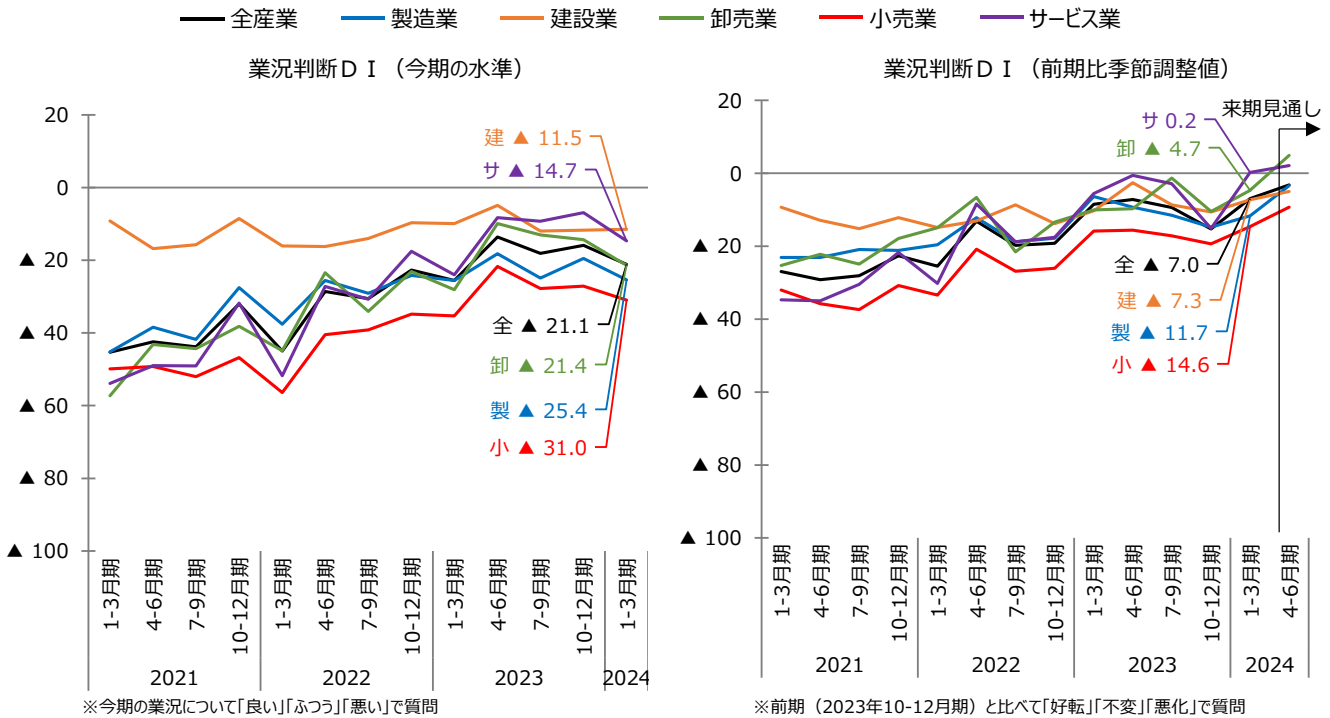


# 第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 九州・沖縄



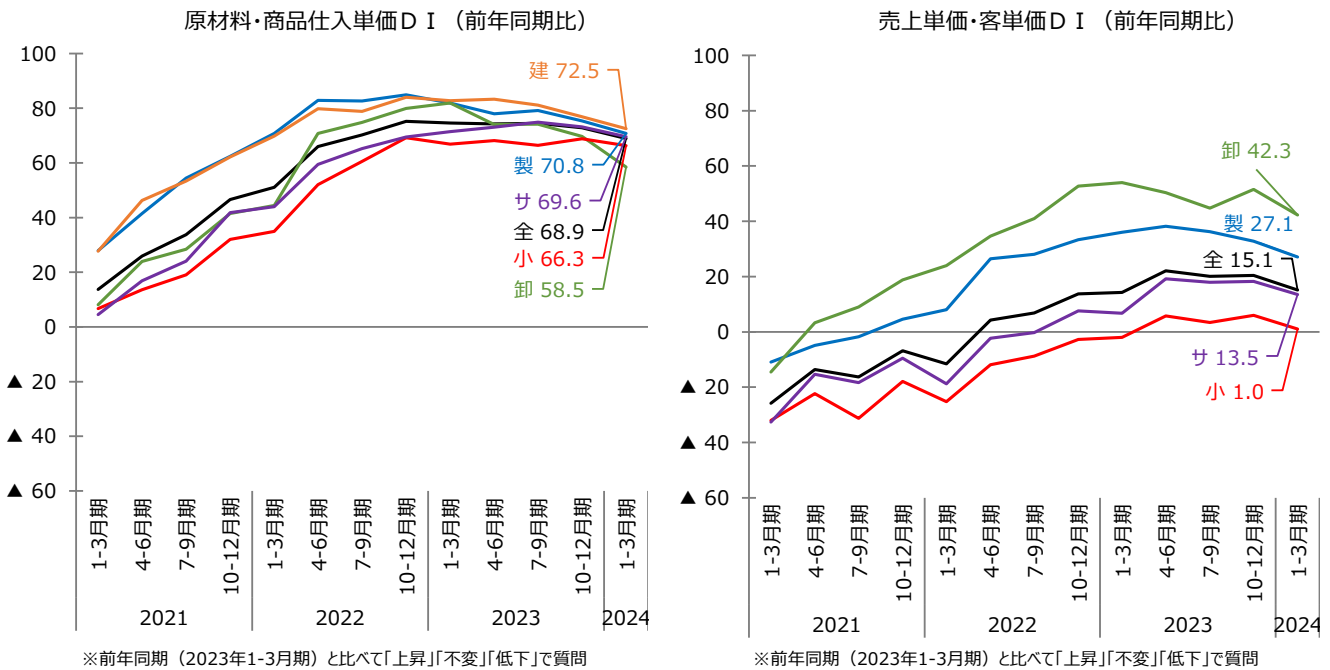
## 1. 業況感

九州・沖縄地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年10-12月期）より5.2ポイント減の▲21.1と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、サービス業、卸売業、製造業、小売業で低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より4.0ポイント減の68.9と2期連続して低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より5.3ポイント減の15.1と2期ぶりに低下した。産業別にみると、4産業すべてで低下した。



<調査概要> 調査時点は2024年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,832 有効回答企業数：17,802 有効回答率：94.5% うち、九州・沖縄：2,718企業

※本資料の集計対象の都道府県は、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県です。

# 第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 九州・沖縄

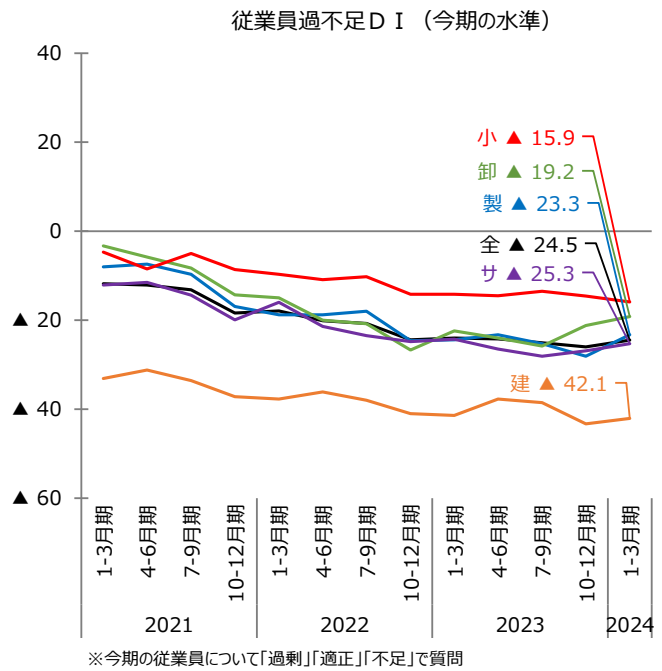
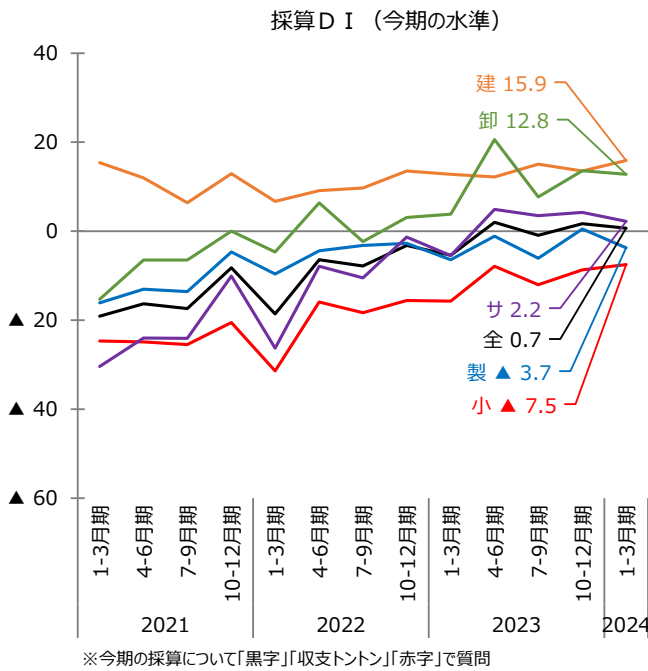


## 3. 採算

採算DIは、全産業で前期より1.0ポイント減の0.7と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業、小売業で上昇し、製造業、サービス業、卸売業で低下した。

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.5ポイント増の▲24.5と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、製造業、卸売業、サービス業、建設業で上昇、小売業で低下した。



## 5. 九州・沖縄の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	過去2年の反動からか、需要の伸びが大きい。しかし、生産が追いつかない状況。	製造業 その他の外衣・シャツ製造業
	資材高騰、建築物価の上昇を、ある程度ユーザーが受け入れてきている感じがする。民間工事の引合いの活発さは、依然として続いている。	建設業 建築工事業 (木造建築工事業を除く)
	人材の確保、定着にも、DX化に取り組む必要がある。属人化する業務を早めに脱却できるように、システムへ投資し、少しでも人の問題を軽減させたい。	卸売業 板ガラス卸売業
	コロナ5類と共に、客足は少しずつ回復傾向にあるが、原材料費の高騰は、依然として続いており、利益確保が厳しい状態である。	小売業 菓子小売業 (製造小売)
	昨年度で比べると、コロナ助成金による集客の反動で、大きく減少したように見えるが、コロナ前と比べると、コロナ期間中に設備投資したこともあり、堅調な足どりで売上は伸びている。	サービス業 旅館、ホテル
見通し	昨年、採用と引き留めの為、昇給を2度に渡り行ったが、今春の昇給は、昨年以上の額が必要と考えている。その分の価格転嫁が、必須となっている。	製造業 銅・同合金鋳物製造業 (ダイカストを除く)
	建設業界にかかわらず、資源・資機材価格の高騰等、人材不足や就業者の高齢化など、不透明な状況にある。引き続き、労働環境改善の為、休日を増やし、賃金アップに取り組まなければ、持続可能な経営は、難しいと感じている。	建設業 一般土木建築工事業
	観光客も増えてきている為、前期と比較して売上は、増加傾向にある。また、相次ぐ商品の値上げに伴い、販売単価も上昇している為、売上は好転している。	卸売業 米麦卸売業
	昨今の仕入単価上昇分の価格転嫁もほぼ完了し、昨年末頃から上昇気運の兆しを感じられる。これから春先にかけて、更なる購買力アップに期待し、業況の改善につなげていきたい。	小売業 各種食品小売業
	足元の1~3月が低調で、単価を上げて何とか維持しているが、需要停滞すれば、価格は下げざるを得ない状況、各キャンペーンの反動減が長びかないことを願う。人手不足は深刻で、今後が心配です。	サービス業 旅館、ホテル

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。